



震災25年若者キャンペーンプロジェクト実施報告

<報告者> 橋詰誠也 (2回生) 池本亮太 (2回生)
小枝英輝 (顧問)

<実施者>

神戸国際大学防災救命クラブ (Network for Disaster Prevention and Life Saving Support Club : DPLS)

<事業名称>

Disaster prevention skills up for foreigners living in Japan at Kobe International University

<実施趣旨>

神戸では25年前に阪神淡路大震災を経験したが、現在は震災後に生まれたものも多く、当時の記憶も薄れてきているのが現状です。震災後も当時の経験が伝えられていないことも考えられます。25年前の大震災を振り返り、地震や津波に対する防災知識をつけることが重要だと考えます。また、六甲アイランドには外国人が多く生活しており、日本における防災及び減災の知識技能を身に付け、今後30年以内に発生する危険性が高いとされる南海トラフ地震に対しても、被害を最小限にすることを常日頃より考えていく必要があります。

今回は上記内容を含め、神戸の大震災での経験や今後必要とされる知識を地域住民 (外国人) と一緒に学びたいと考え企画しました。

<プログラム>

- ①講演：「阪神淡路大震災の教訓 (大津俊雄先生：前神戸国際大学教授)」
- ②講演：「六甲アイランドの防災について (前田 勉先生：六甲アイランド地域振興会防災担当)」
- ③「防災関係備品体験」

ロープワーク (小枝英輝：神戸国際大学)
 テント設営 (西 俊一：日本ボーイスカウト兵庫連盟)
 防災備品体験 (藤倉哲哉：神戸国際大学)

<結果>

実施日：2019年10月26日 13：30～15：30
 場所：神戸国際大学2号館3階アクアホール
 主催：神戸国際大学防災救命クラブ (DPLS部)
 参加者数：一般13名、学生62名 (内留学生10名) 合計75名

<参加者アンケート調査結果>

●今回のセミナーではどのテーマに興味・関心がありましたか。

- ①阪神淡路大震災の教訓 18名
- ②六甲アイランドの防災について 17名
- ③防災関係備品体験 24名

●本日のセミナーについてご意見・ご感想がありましたらご記入ください。

丁寧な説明で防災の意識が高まりました。防災対策をこれからやっていこうと思いました。震災の凄さが理解できました。ロープワークがよかったです。体験ブースがよかったです。学生中心のスタイルがよかったです。非常食の試食がよかったです。災害に対して備品の必要性がわかりました。

<報告者感想>

私たちは阪神淡路大震災を知りませんが、震災25年若者キャンペーンプロジェクトを実施して、多くの内容を知ることができました。当時の震災を改めて認識し、日ごろから家族で避難所のことや防災備品の備えについて話し合うこと、あらゆる場面に遭遇しても安全な行動がとれるように普段から準備していくことを痛感しました。また、六甲アイランドの住民も高齢化しており、地域住民からは大学生が頼りにされていることもわかりました。大学生として考えさせられることが多くあった有意義なプロジェクトだったと思います。

